

# 中国の記 その1



大滝 邦彦 著

『中国の記』 <その1>

(I) 中国の歴史をひもときながら、。

(01) 中国への旅立ち

(1) 北京へ（久しぶりの中国へ、中国の古代史を想う）

(2) 北京に到着（初めて、中国語を発する）

## (1)北京へ（久し振りの中国へ、中国の古代史を想う）

---

### (1)北京へ（久し振りの中国へ、中国の古代史を想う）

京浜急行の羽田空港国際線ターミナル駅の改札口を出ると、出発ロビーへのエレベーターが直ぐ前にある。成田に比べると随分と便利となった。ショッピング街の江戸小路への階段の袂にあるAir Chinaのカウンターに直行する。

チェックインでは、機内で動き易い通路側の席を選ぶ。預けたバッグが無事に着くことを願いながら手荷物検査、出国手続きを受け、搭乗ゲートへと進んだ。椅子に座って、中国への旅立ちを待ったが、日本人の乗客は見当たらない。聞こえて来るのは中国語ばかりで、帰国の連絡なのか、スマートフォンを使っている人が多い。

予定より30分程遅れての搭乗となった。機体は、中央通路の左右に3列座席の小ぢんまりとしたボーイング737である。リック1つに纏めた手荷物を前座席の下に押し込んで、靴を脱ぎ、用意しておいたスリッパに履き替えて、約4時間の旅に備えた。

成田を飛び立つと、やがてスチュワーデスが毛布を配り始めたが、前の座席でその手持ちがなくなった。

「我也要毯子。wǒ yě yào tān zi.（私も毛布欲しい。）」  
と毛布を要求するが、スチュワーデスにつれなく言われた。

「已经没有了。yǐ jīng méi yǒu le.（もうなくなった。）」

中国では、乗客の数だけを在庫するサービスは、“没有 méi yǒu（ない）”なのだと、ちょっと不満を抱いているところに、後ろの座席から声がした。

「请你用这个一下。qǐng nǐ yòng zhè ge yī xià.（どうぞ、これを使ってください。）」

後ろを振り向くと、若い男性客が毛布を差し出してくれている。

「谢谢!xièxiè!（ありがとう!）」

20数年ぶりとなる中国に期待と不安が交錯していたが、この思わぬプレゼントは、これからの中国の旅に“幸あり”だと、希望を大きく膨らませてくれた。

やがて、日本列島を離れる頃に昼食となる。青梗菜と鶏肉の炒め物と白飯の弁当に、デザートのカッキー、それにどういう訳か、小さいパンも付いていた。食後のワインを愉しみながら中国大陸の古代の歴史について思い巡らす。

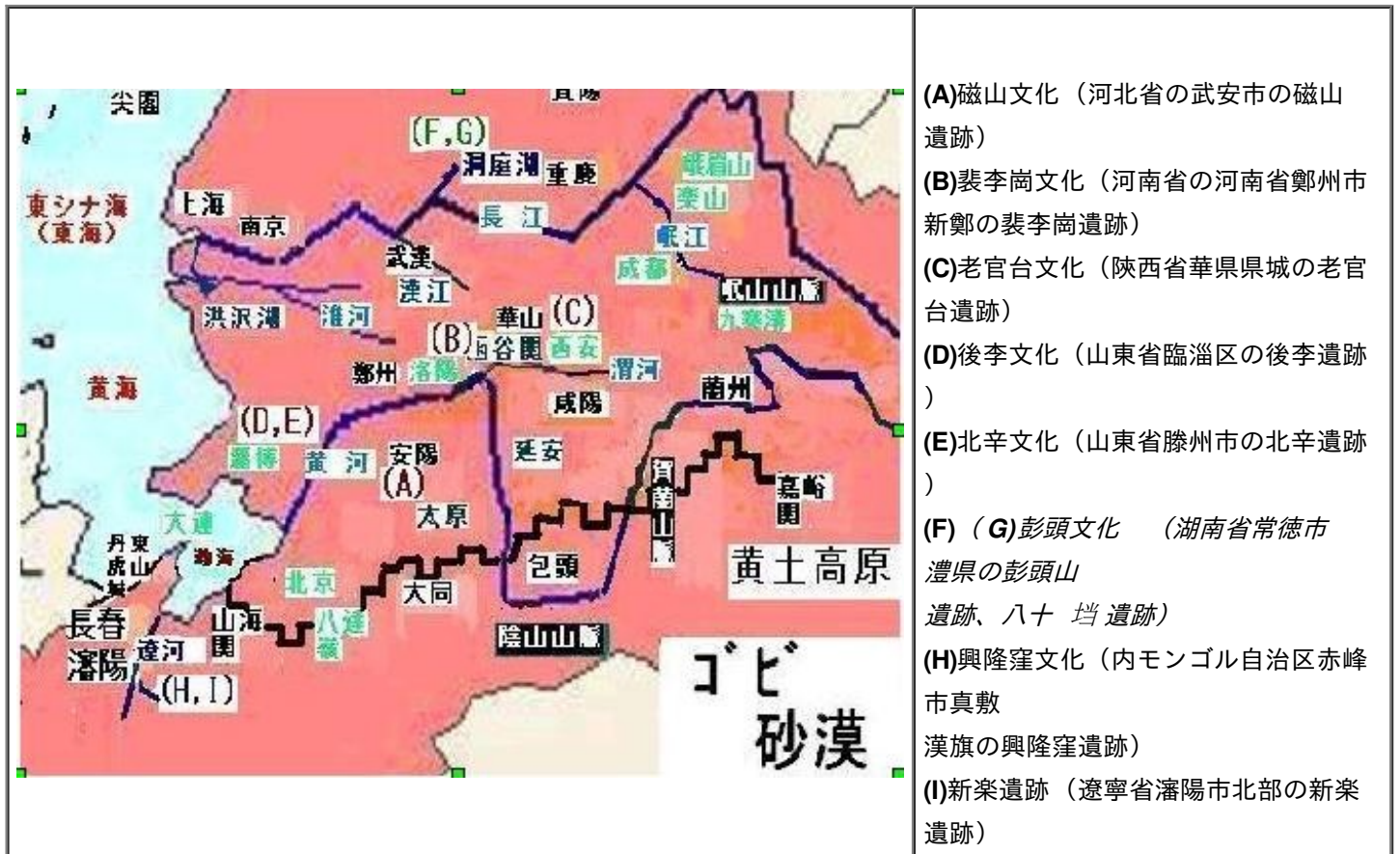
人類の穀物栽培の曙としては、紀元前1万年頃の古代メソポタミアのフレイラ（現在のシリア）での麦の栽培遺跡が有名であるが、中国大陸でも「長江（揚子江）流域」の江西省万年県の仙人洞・呂桶環遺跡で、紀元前1万2000年頃～前1万3000年頃の陸稲の栽培の痕跡（イネ科の植物の細胞壁に珪酸が沈着して形成される植物珪酸体のプラントオパール）や湖南省道県の玉蟾岩遺跡で、紀元前1万2000年頃～前1万4000年頃の陸稲の栽培の痕跡（稲粃）が発見され

ている。

日本では縄文時代の草創期（紀元前1万3000年～前1万年）に当たる頃である。なお、日本最古の土器は、炭素14分析結果によって約紀元前1万4500年のものとされた青森県蟹田町で出土した土器であるが、陸稲の痕跡となると、縄文時代後期の紀元前1500年頃まで時代が下った岡山県総社市の南溝手遺跡や倉敷市の福田貝塚で発見された土器に付着していた粳の痕跡となる。

その後、日本の縄文時代の早期（紀元前1万年～前5000年）に当たる頃には、中国大陸では、「黄河・長江・遼河流域」などの多様な地域に、多様な民族による『文明』が多角的に発現した。

「黄河中流域」での紀元前6000年頃～前5500年頃の『磁山文化』、紀元前7000年頃～前5000年頃の『裴李崗文化』、紀元前6000年頃～前3000年頃の『老官台文化』や「黄河下流域」での紀元前6500年頃～前5500年頃の『後李文化』や紀元前5300年頃～前4100年頃の『北辛文化』の粟など栽培の『畑作の黄河文明』、そして、「長江中流域」での紀元前7500年頃～前6100年頃の『彭頭山文化』の『稲作の長江文明』、更に、中国東北部の「遼河流域」では、紀元前6200年頃～前5400年頃の『興隆窪文化』や紀元前5200年頃～前4800年頃の『新樂文化』の『狩猟・採集・漁労・農耕の遼河文明』が発現した。



日本の縄文時代の前期（紀元前5000年～前3500年）が始まる紀元前5000年頃以降には、中国大陸の「黄河流域」・「長江流域」・「淮河下流域」・「遼河流域」など、それぞれの『文明』へと発展して行く。

「黄河流域」では、粟・麦など栽培の『畑作の黄河文明』が発展する。「黄河中流域」では、紀元前5000年頃～前3000年頃の彩文土器で有名な『仰韶文化』が発現し、「黄河中流域」の紀元前2700年頃～前2200年頃の『河南龍山文化』や紀元前2300年頃～前2000年頃の『陝西龍山文化』、そして、「黄河上流域」の紀元前3100年頃～前2700年頃の『馬家窯文化』へと継承された。

「黄河下流域」でも、紀元前4300年頃～前2400年頃の紅色彩陶で有名な『大汶口文化』が発現し、紀元前2500年頃～前2000年頃の黒陶で有名な『山東竜山文化』へと継承された。

一方、「長江流域」では、水稻栽培の『稲作の長江文明』が発展する。「長江下流域」の浙江省余姚市の河姆渡遺跡で水田跡と大量の稲モミが発見され、炭素14分析によってその年代が確定された紀元前5000年頃～前4500年頃の『河姆渡文化』や浙江省嘉興市の馬家濱遺跡で灌漑跡が発見された紀元前4000年頃～前3000年頃の『馬家濱文化』は、玉で有名な紀元前3500年頃～前2000年頃の『良渚文化』に継承された。

「長江中流域」では、紀元前5000年頃～前3000年頃の『大溪文化』が発現し、紀元前3000年頃～前2600年頃の『屈家嶺文化』へと継承された。

そして、「長江上流」でも、紀元前4000年頃からの『古蜀国文明』を証する紀元前3000年頃～前2000年頃の青銅製の独特な縦目仮面で有名な『三星堆文化』が発現している。

また、黄河下流の南、長江下流の北を流れる「淮河下流域」でも、水稻栽培の『稲作文明』の紀元前5400年～前4000年頃の『青蓮崗文化』が発現し、その系統の紀元前5000年～前2000年頃の『龍虬庄文化』に継承された。

更に、中国東北部の「遼河流域」では、『狩猟・採集・漁労・農耕の遼河文明』が発展する。紀元前6200年頃～前5400年頃の『興隆窪文化』や紀元前5200年頃～前4800年頃の『新樂文化』を継承した紀元前5400年～前4500年頃の『趙宝溝文化』が、紀元前4700年頃～前2900年頃の竜などを形どったヒスイで有名な『紅山文化』へと継承された。

| 畑作の『黄河文明』の発展 |   |  |
|--------------|---|--|
| ◆黄河上・中流域     | 『仰韶文化』<br>◆黄河中流域<br>★河南省鄧州の仰韶遺跡<br>◆黄河中流の支流渭河流域<br>★陝西省西安市の半坡遺跡 | ◆黄河上流域<br>『馬家窯文化』<br>★甘肅省臨洮県の馬家窯村の馬家窯遺跡<br>◆黄河中流域<br>『河南龍山文化』<br>★河南省西南部の淅川県南の下王崗村丹江南岸の下王崗遺址 |

|        |                          |  |
|--------|--------------------------|--|
|        |                          | ★河南省洛陽市西郊谷水鎮の洛陽王湾遺址<br>★河南省登封県王城崗の王城崗遺址<br>『陝西龍山文化』<br>★陝西省西安市の客省庄遺跡<br>★山西省襄汾県の陶寺遺跡 |
| ◆黄河下流域 | 『大汶口文化』<br>★山東省泰安市の大汶口遺跡 | 『山東龍山文化』<br>★山東省済南市章丘県龍山鎮の遺跡   |

| 水稲作の『長江文明』の発展 |   |                                 |
|---------------|---|---------------------------------|
| ◆長江下流域        | 『河姆渡文化』<br>★浙江省余姚市の河姆渡遺跡<br>『馬家濱文化』<br>★浙江省嘉興市の馬家濱灌溉跡遺跡 | 『良渚文化』<br>★浙江省の杭州市の良渚遺跡         |
| ◆淮河下流域        | 『青蓮崗文化』<br>★江蘇省淮安県北東部の青蓮崗遺跡                             | 『青蓮崗文化』系統<br>★江蘇省の揚州市の高郵県の龍虬庄遺跡 |
| ◆長江中流域        | 『大溪(xi)文化』<br>★重慶市、湖北省から湖南省の山峡周辺の大溪遺跡                   | 『屈家嶺文化』<br>★湖北省荊門市京山県の屈家嶺遺跡     |
| ◆長江上流域        | 『古蜀国文化』   | 『古蜀国文化』<br>★四川省成都北東の広漢市の三星堆遺跡   |

| 『狩猟・採集・漁労・農耕の遼河文明』の発展 |  |  |
|-----------------------|--|--|
| ◆遼河流域                 | 『興隆窪文化』<br>★内蒙古自治区赤峰市真敷漢旗の興隆窪遺跡<br>『新樂文化』<br>★遼寧省瀋陽市の北部の新樂遺跡<br>『趙宝溝文化』<br>★内モンゴル自治区赤峰市敖漢旗の趙宝溝遺跡 | 『紅山文化』<br>★内蒙古自治区赤峰市の紅山後遺跡<br>★遼寧省朝陽市建平県と凌源市の境の牛河梁遺跡 |

このように、紀元前3000年～前2000年頃の中国大陸では、「黄河中流域」の平原、現在の河南省に当る所謂、『中原』と呼ばれる地域を中心にして、『仰韶文化』を継承する「黄河中流域」の『陝西・河南の龍山文化』及び『大汶口文化』を継承する「黄河下流域」の『山東龍山文化』の『畑作文明』と、『河姆渡文化・馬家濱文化』を継承する「長江下流域」の『良渚文化』、『大溪文化』を継承する「長江中流域」の『屈家嶺文化』、そして、黄河下流と長江下流の中間を流れる「淮河下流域」の『青蓮崗文化』系統の『龍虬庄文化』の『稲作文明』とが対峙しており、これらの文化の外郭には、「長江上流域」の『三星堆文化』の『古蜀国文明』や「遼河流域」の『紅山文化』の『狩猟・採集・漁労・農耕の遼河文明』が存在していた。

<紀元前5千頃～前3千年頃>

<紀元前3千年頃～前2千年頃>



この所謂、『中原』を舞台にしての紀元前5000年頃～前3000年頃の『仰韶文化』が紀元前2700年頃～前2000年頃の『陝西・河南の龍山文化』へと発展する、その発展の物語が、(前・西)漢の第7代皇帝、武帝の時代(紀元前141年～前87年)に司馬遷によって、中国の”正史”、「史記」の「五帝本紀」に記された中国の先史時代の『五帝(黄帝、顓頊、嚳、堯、舜)』の伝説と考えられる。

なお、『五帝』の前時代の『三皇(伏羲、女媧、神農或は天皇・地皇・人皇)』については、唐の時代(紀元618年～907年)に司馬貞が「補三皇本紀」に記したが、雑多な神話が多く、“正史”としては奉じられなかった。

この時代は、日本では、青森県三内丸山遺跡(紀元前3500年～前2000年頃)での大型掘立柱建物、縄文土器、石器、土偶、翡翠、黒曜石の装飾品粟、豆などの栽培の『縄文文化』が花開いていた頃に当たる。

日本の縄文時代の後期(紀元前2500年～前1300年)の中頃の紀元前2100年頃から中国大陸では、『先史時代』から『歴史時代』へと移行する。

「黄河中流域」の「河南」では紀元前2100年～前1600年頃の『二里头文化』(河南省の洛陽の偃師市二里头遺跡)、紀元前2000年頃の『瓦店竜山文化』(河南省”禹”州市の瓦店遺跡)、紀元前2000年頃～前1900年頃の『新砦文化』(河南省鄭州市新密新砦遺跡)、紀元前1600年～前1400年頃の『二里岡文化』(河南省鄭州市二里岡遺跡)が発現し、「河北」では、紀元前2000年～前1600年頃の『下七垣文化』(河北省邯鄲市磁県の下七垣遺跡)、紀元前1350年頃～前1046年の『殷墟文化』(河南省安陽市小屯村の殷墟遺跡)が発現する。

そして、「黄河下流域」では、紀元前1900年～前1500年頃の『岳石文化』(山東省平度市大澤山東岳石村の岳石遺跡)が発現した。

「殷墟遺跡」から出土した甲骨の中に、司馬遷によって編纂された中国の歴史書、「史記」に

記された「殷王」の名前が、「甲骨文字」で刻まれていたので、これまで伝説とされて来た『殷王朝』が、中国大陸の歴史上、最初の『王朝』として認められた。

この中国大陸の歴史上、最初の「殷王朝」は、紀元前1046年に、西方の民族の「周王朝」（西周：紀元前1046年頃～前771年、都は現在の西安の周至県の”鎬京”）に滅ぼされる。

そして、この「周王朝」も、更に西方の民族に都の”鎬京”を追われて、東の”洛陽”に遷都して”東周”として存続するも、もはや統一権力はなくなり、五覇（”齊”の桓公、”秦”の穆公、”宋”の襄公、”晋”の文公、”楚”の荘王）の「春秋時代」（紀元前771年～前403年）、そして、7雄（齊・楚・秦・燕・韓・魏・趙）の「戦国時代」（紀元前403年～前221年）の分裂時代に突入することになる。

この戦乱の時期に「諸氏百家」と呼ばれる儒教の孔子、墨家の墨子、道家の老子・荘子、法家の韓非などの思想家が活躍した。

紀元前221年に、凡そ550年間もの長い分裂の世の中国大陸を全域的に統一したのが、「秦の始皇帝」である。従来王朝の治める国は、都市国家の性格が強かったが、「秦王朝」は、中国大陸の最初の”統一王朝”であり、伝説の五帝の「帝王」よりも偉い称号「皇帝」を用いて「秦始皇帝」と自称したのは正しい認識であった。

しかし、この「秦王朝」（都は現在の西安市の咸陽市の”咸陽”）も、「始皇帝」が紀元前210年に亡くなって僅か4年後の紀元前206年には、東方の”沛県（現在の江蘇省徐州）”の農民だった”劉邦”によって、「漢王朝」に取って代わられる。

「漢王朝」は、紀元206年から紀元220年まで「（西・東、前・後）漢王朝」を合わせて約400年間と長く続いた歴史の中で、中国大陸の統一国家の礎を築いた。言語が”漢語”、文字が”漢字”、文章が”漢文”、詩が”漢詩”と呼ばれるようになり、そして、中国人の根幹である『漢（民）族』の概念や所謂、『中華思想』を育んだ。

この「漢王朝」の時代から、日本（古は「倭国」と呼称）は、歴史上多くの関わりを持って行くこととなる。

弥生時代（紀元前300年頃～250年頃）の北九州の墳墓から「（前・西）漢王朝」（紀元前206～8年、都は現在の西安の”長安”）時代の「前漢鏡」が多数出土する。また、倭国の「倭奴国王」が「（後・東）漢王朝」（紀元25年～220年、都は”洛陽”）の「光武帝」から金印を受け、「邪馬台国」の女王、「卑弥呼」が「三国時代」（紀元220年～280年）の華北の「魏」（都は”洛陽”）から「親魏倭王」の金印を受けた。

古墳時代（紀元250年頃～600年末頃）の「倭王武（雄略天皇）など」の”倭の五王”が「南



北朝時代」（紀元439年～589年）に南朝、”宋”の「順帝」などに、朝鮮半島南部を含めての諸軍事安東大将としての”倭王”と上表した。

飛鳥時代（紀元592年～710年）には、「聖徳太子」が「隋王朝」（紀元582年～618年、都は現在の西安の”大興城（長安）”）に『日出處天子致書日没處天子無恙云云（日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無しや、云々）』との国書を、「遣隋使」に持たせて、「煬帝」を立腹させながらも、友好関係を結んだ。

「遣隋使」の後、「唐王朝」（紀元618年～907年）の城都、”長安”（現在の”西安”）へ平安時代（紀元794年～1185年）時代の中葉まで、16回の「遣唐使」を派遣して、その先進的な政治体制や文化・宗教などを取り入れた。

「遣唐使」が訪れた”長安”は、「唐王朝」の時代に、東ローマ帝国の「ローマ」やイスラム帝国の「バグダード」と並んで、人口100万人とも言われる世界の大国際都市へと発展を遂げた。

この中国古代の最大の城都、”長安”が、今回の中国旅行でも訪れることとなる現在の古都、”西安”である。

ワインのほろ酔い気分がまだ醒めぬ中、スチュワーデスのアナウンスが機内に響いた。

「北京快到了！běijīng kuài dào le.（まもなく北京に着きます！）」

中国語の女性の音声は、その抑揚がなんとも耳に心地良い。

## (2) 北京に到着（初めて、中国語を発する）

(2) 北京に到着（初めて、中国語を発する）

北京首都国際空港へ無事に着陸した。「再见!(zàijiàn!)」とのスチュアードスの挨拶を背にして、幾つもの動く廊下を乗り継ぐ。もくもくと長い通路を進むうちに、乗客の群れがバラけたのか、イミグレーションでは行列はなく、意外とスムーズに中国へ入国出来た。

ここから荷物受取所へはシャトルに乗る必要があることは、事前のインターネットで調査済みである。乗り込んだ電車が、これまた、延々と進み、ここ、北京空港が広いことを実感させられた。やっと到着したホームをしばらく歩くと、その先にターンテーブルがすでに回っていた。ほどなく、無事に出て来た旅行バッグを手にして一安心する。

空港から約30kmの北京市街までは、電車、機場快軌に乗る予定である。巨大な亀の甲羅状の半透明の屋根の下にホームを見つけた。右端にあるキップ売り場の窓口で、女性サービス員へやや緊張しながら中国で初めてとなる中国語を発する。

「我要买一张去三元桥站的票。wǒ yào mǎi yī zhāng qù sānyuánqiáo zhàn de piào. (三元橋まで1枚下さい。)」

100元札からの75元のお釣とキップがサービス員から無事に手渡された。ホームへの改札口の前で、乗客が来るのを待ち、自動改札口でのキップのやり方を確認して、ホームへと入る。

機場快軌の電車は、北京市街の東直門から三元橋を経て、先ず第3ターミナルへやって来て、第2ターミナルへ向かい、そこから北京市街へ戻る。従って、ここ、第3ターミナルから乗った場合、先ず第2ターミナルに行き、そこから三元橋、東直門へ向けて出発となる。

電車は駅を離れると見るみる内にその速度を増す。大きな車窓には、高層ビルが群をなして、首都、“北京”が大都会であることを顕示し始めた。

“北京”は、周・春秋時代・戦国時代の燕（紀元前1100年頃～前222年）の都、“薊”が始まりであるが、長らくは辺境の地であった。ずっとうと後代になって、「元王朝」が紀元1267年から26年間を費やして、ここに冬の都を造営した。後に城都として、“大都”と呼んだが、これが首都としての始まりである。近代となって、「中華民国」は、“北平”や“北京”と呼んだが、1949年に樹立された「中華人民共和国」では、首都、“北京”とされた。

三元橋で確実に降りることが次の課題である。そこで、隣席の若い青年に確認することにした。

「到达三元桥站的时候,请你告诉我,好吗? dàodá sānyuánqiáo zhàn de shíhòu, qǐng nǐ gàosu wǒ, hǎo ma? (三元橋についたら、教えて下さい。)」

「好,坐三十分钟左右,就可以到达三元桥站。请放心,我告诉你。hǎo, zuò sān shífēn zhōng zuǒ yòu, jiù kě yǐ dàodá sānyuán qiáo zhàn. qǐng fāngxīn, wǒ gàosu nǐ. (良いですよ、30分くらい乗ったら、三元橋に着くよ。教えてあげるから安心して下さい。)」

「谢谢。xièxie. (ありがとう)。)」

彼は、電腦ソフト関連の仕事をしている35歳の周と言う青年であった。

「中国最近经济发展得很大,有钱的人很多吧! 最近在日本旅行的中国人很多,去东京的银座常常听到中国话。zhōngguó zuìjìn jīngjì fāzhǎn de hěn dà, yǒu qián de rén hěnduō ba! zuìjìn zài rìběn lǚ xíng de zhōngguó rén hěnduō, qù dōngjīng de yínzuò chángcháng tīngdào zhōngguó huà. (中国は最近経済発展が著しいので、金持ちが多いのでしょうか。日本では、最近中国の旅行者がとても多く、東京の銀座に行くと中国語が何時も聞けますよ。)」

「很有钱的人,不是很多,一般的人没有钱。hěn yǒu qián de rén, bùshì hěnduō, yībān de rén méi yǒu qián. (大金持ちはいるけど、少ないよ。一般の人はお金ないよ。)」

この電車だって、オリンピックのために造ったとは言え、立派な高速鉄道である。でも、空港から市街までの25元（約370円）の運賃は、一般の人にとっては随分と高いのだとこの青年は追加した。

やがて、電車は地下に潜り、“三元橋”に着いた。青年にお礼と別れを告げて電車を降りる。携帯を中国モードに切り替えて時計を見ると、ダオヨウさんとの約束の時間を随分と過ぎていた。

予定では、“三元橋”から地下鉄を乗り継いで、“亮馬橋”まで行くところを、ここで降りて、タクシーに乗ることにした。

改札口を出て、薄暗い通路を進むと左右に通路は分かれている。通路の正面に、多色の服に帽子を被った民族衣装の女性が小物の土産品を売っていた。

土産物を並べたテーブル越しに、たどたどしく尋ねる。

「我想坐的士,请问怎么走? wǒ xiǎng zuò díshì, qǐng wèn zěnme zǒu? (タクシーに乗るには、どう行けばいいですか?)」

彼女は、浅黒く焼けた顔を綻ばせて、白い歯を見せながら盛んに右方向に手を動かした。

「一直走,上楼梯! yīzhí zǒu, shàng lóutī! (真っ直ぐ行って、階段を上りなさい!)」

「谢谢! xièxiè! (ありがとう!)」

その親切な言葉にお礼を言って、旅行バッグを抱え上げながら階段を登った。

タクシー乗り場を尋ねたつもりだったが、それは見当たらない。大通りの道端には、駐車違反と思われる車がずらりと並んでいた。広い道路には、欧米系、日本そして国産（中国）車がひしめいている。しかし、危険を犯してでも、その駐車列の前面に出て、タクシーを拾うしかない。

手を挙げてみると、無理やり車線を変更してやって来た車が、急ブレーキを掛けて停まった。少々驚きながらもドアを開けて、乗り込む。

あらかじめ準備して置いたホテルの地図を見せながら行き先を伝えた。

「我想去这个饭店? wǒ xiǎng qù zhège fàndiàn? (このホテルへ行きたい。)」

「明白了。míngbai le. (分かった)」

その大きな声とともに、タクシーは急発進し、渋滞の道路を車をくぐり抜けながら勢い良く走った。

「饭店远不远?fàndiàn yuǎn bù yuǎn? (ホテルまで遠いですか?)」

「不太远。bùtài yuǎn. (そんなに遠くないよ。)」

幾つかの街角を曲がると、ほどなく、見えてきた看板を指差しながら、運転手が言った。

「那里是光明饭店的。nàlǐ shì guāngmíng fàndiàn de. (あそこが光明ホテルです。)」

「看见了! kànjiàn le! (分かりました。)」

ホテルの玄関前で停まった車のメーターを見て15元を出すと、更に2元を要求された。腑に落ちないが、まあ、チップでいいかと2元の追加した。

ホテルの玄関には、ダオヨウさんが私、ダーロンを迎えてくれていた。

「どうも、どうも、すっかり遅れてしまって。」

飛行機の出発が遅れた所為もあったが、ホテル到着が予定より随分遅れてしまった。ダオヨウさんは、心配してホテルの玄関前まで来てくれていたようだ。

「部屋に荷物を置いたら、夕食に出かけましょう!」

ダオヨウさんの息子さんが社用車でホテルにすぐに迎えに来ることになっているとのことであった。

息子さんとは、初対面である。しかし、息子さんのことは、ダオヨウさんからの話の上でよく承知している。20数年前に中国、広東省で、ダオヨウさんと一緒に仕事をやったときに、日本から大学合格の吉報が来たのを聞いたのが最初である。

その後、我々の中国との関わりが発端となってかは知らないが、中国語に興味を持たれたらしい。大学卒業後、日本

を代表する商社Mに就職されて、台湾、上海で勤務された後、今年の春から北京勤務とのことである。

レストランは、「鼎(dǐng)」と言う店で、案内された二階の客室はほぼ満席であった。

「この小籠包は美味しいとの評判がいいですよ、召し上がってください。

熱い汁に火傷しないように、包みをレンゲに乗せて、箸であらかじめ中の汁を少し出してから口に入れるといいですよ。」

確かに、熱い汁が舌に来たので青島ビールで口の中を冷やした。とても、美味しく、

「很好吃!hěn hǎochī! (とても美味しい!) 」と思わず中国語が出て来た。

「お仕事はどんなことですか？」

「中国への鉄鋼の売り込みです。」

「最近は特に内陸への開発で建設ラッシュなのではないでしょうか？」

「そうですね、中国の経済は元気いっぱいですね。」

「日本の鉄鋼の売れ行きは、どんな具合ですか？」

「韓国勢の追い上げもありますし、中国の国産品も、最近一般品の品質が向上して来てまして、商売は大変ですよ。」

「韓国勢は、ドル安に従ってのウォン安で自動車や電気製品でも海外で日本勢を押えているらしいですね。」

「日本は、景気が悪いのに円高ですから。」

「日銀が円札をいっぱい刷って、国債いっぱい買ったら良いのでは？」

「とにかく、日本の為替政策は無策だし、外国にやられっぱなしですよ。」

中国に来てても、日本の経済政策不在に苦言を呈されたが、このところの民主党政府の状況では、それも、尤もなことである。

「明日、長城へ電車で行かれるとのことでしたので、キップを買っておきました。」

「観光客が多くて入手困難ではなかったですか、お手数お掛けしました。有難うございました。」

北京北駅発の”八達嶺”行きのキップを手を受け取ると、明日の長城観光への愉しきで胸がいっぱいに膨んだ。